

第6学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

対象：第6学年2組 22名

授業者：平野 智裕

1 単元名 「世界とつながる北糺谷小学校～国際都市おおた～」【B 地域の創生】（15時間扱い）

2 単元目標

日本航空株式会社と連携し、海外の方と英語を使ったコミュニケーションを通して、これまで学習してきた英語の表現や言葉を使うとともに、自分たちの町の魅力を伝えるための手段や方法をグループごとに工夫し、動画にまとめ、課題を解決するために一人一人が役割を担って、主体的に活動できるようにする。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ア 外国語科で学習した表現を使って、大田区の魅力を伝えている。 イ 大田区の魅力を調べ、内容を精選し、話したいことを決めている。	ア 大田区の魅力を伝えるために、内容のまとまりや話す順番について考えている。 イ それぞれのグループのテーマに沿って内容を話し合い、決めている。	ア グループの中で役割分担を決め、自己の学習計画に沿って学習をすすめようとしている。 イ 他者と相談しながら、互いの学習の様子を確認し合い、よりよい発表にしようとしている。
ICTの活用	ウ 動画編集ソフトを使い、1分程度の動画にまとめている。	ウ 内容を効果的に伝えるために、必要な字幕や音響を考えている。	ウ 作成した動画を見直し、課題を発見して、解決しようとしている。

4 単元について

（1）単元設定の理由

本校では、様々な外部人材を活用して、児童の可能性を伸ばしたり、気付かせたりし、児童自身が自分のよさを見付け、自己を肯定的に捉える年間指導計画を立てている。そして、羽田空港の近くにあるという地域の特色を生かして、国際交流を行い、様々な価値観に触れて多様なものの見方や考え方を養い、自分から地域の魅力やよさを伝えようとする自ら学びに向かう力の育成を図るために本単元を設定した。

（2）授業パートナーとの連携

日本航空株式会社の方々と連携し、海外の人々とコミュニケーションを取るために必要な知識や技能を身に付けるとともに、国際交流の意義について理解し、大田区の魅力を発信しようとする主体的に取り組む態度の育成を図る。そのために、大田区の魅力を紹介するPR動画を作成し、日本航空株式会社の方々に見ていただく。国際的な視点でのものの見方を身に付けたり、ICTの活用能力を伸ばしたりする効果が期待できる。

(3) 学習過程

「実社会で活躍する人との出会い等」では、日本航空株式会社と連携して国際交流を行うことで、ものの見方や考え方を広げることや ICT を活用して大田区の魅力を伝えられるように ICT 活用の能力を重点的に指導する。「コンセプト」では、「大田区の魅力を世界に発信する」という活動に取り組むことで、英語の技能を日常生活に生かす能力、すすんで情報を収集したり、出し合ったりして協働的に学習しようとする学びに向かう力を重点的に指導する。「デザイン」では、コンセプトに合った動画を作成し、よりよいものにしていくために、グループ一人一人の持ち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組む主体性を重点的に指導する。「クリエイション」では、日本航空株式会社の方からの評価等を整理、分析し、試行錯誤して大田区の魅力を伝える動画を作成し、相手意識に立って発信する思考力、判断力、表現力等を重点的に指導する。

(4) キャリア教育とのつながりについて

本単元は、日本航空株式会社の方々、ICT サポーターとの関わり、児童同士での話し合い活動や協働作業がとて多い単元である。また、課題に対してどのように、何を行っていくのかを自分自身で考え、判断し、答えを導き出していくという過程は、児童の主体性を高め、自己解決能力を高めていくものである。従って、本単元の学習を通して、四つの基礎的・汎用的な能力のうち、「人間関係形成能力」と「課題解決能力」を育成する。

(5) 教科化された場合の本単元で扱う教科等の内容及び本単元に関連する授業時数

教科等名	本単元で扱う内容	授業時数
国語	・話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の内容の構成を考えること。 ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること。	4
外国語	・身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。	4
総合的な学習の時間	・大田区のよさや特徴、魅力などについて調査し、情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ、表現すること。	7

5 児童の実態

1 学期の外国語科の学習において、外国語教育指導員に一人一人が大田区の魅力を発表するという学習を行ったり、日本航空株式会社の方々と交流を行って仕事の内容や国際交流の観点から多様な人々と接するために大切な意識や行動について学んだりしてきた。本単元で行う学習活動において、外国語科で身に付けるべき基本的な知識・技能は身に付いており、国語科や総合的な学習の時間に学んだ発表の方法や仕方については理解が深まっている。これらの状況を踏まえて、本単元ではより相手意識をもった発表を行い、相手が知りたいことや求めていることに対して話の内容をまとめ、伝えられるようにしたい。今回はグループで活動を行うため、一人一人の思いや考えをまとめるために友達の思いや考えと自分との間の共通点や差異点を確認し合い、一つの動画にまとめていけるよう指導する。外国語を話すことが苦手な児童には、練習を入念に行い、話す内容を覚えて、自信をもって話せるようにする。また、株式会社タタ・コンサルタンシー・サービスズの方々からはプレゼンテーションの効果的な方法を教わった。相手に伝わる話し方や資料の選び方などを学び、各教科の学習でも生かそうとしている。

6 指導の手だて

(1) グループ形式での計画・発表

大田区の魅力を伝えるために、興味・関心に合わせていくつかのテーマを設定してグループを組み、計画を立てさせることで、児童の学習に対する意欲を高める。そのグループの中で役割分担をはっきりさせることで、自己のめあてや課題を調整しながら活動できるようにする。また、ICT 活用能力、英語の知識や技能を考慮してグループを構成し、一人一人が活躍できる機会や場を設定できるようにする。

(2) 授業パートナーとの事前打合せ

日本航空株式会社の方々が普段どのような仕事をしているのか、人々とどのように関わって社会をよりよくしようとしているのかを話していただく機会を最初に設け、その後国際交流の観点から「大田区の魅力を伝えるPR動画」を児童に依頼してもらうことで、課題を明確にする。これまでに身に付けたICT活用能力、英語を使って自分の思いや考えを表現する力がより一層高めていくためにも、今回の広告型の提案は非常に価値あるものである。企業の方とは夏季休業中から相談を行い、3回授業に出ていただくことにした。初回は企業の仕事内容を知るための交流、2回目は作成したPR動画の評価をしてもらい、改善につなげる学習、3回目は最終発表会を聞いていただき、交流することにした。

(3) ICT等の活用

動画編集ソフト「Adobe Express」を使い、大田区の魅力について1分程度の動画にまとめ、それぞれのグループで伝えたい内容を話し合い、伝えるべき事柄を取捨選択して完成させる。また本時では、日本航空株式会社の方と直接その場で質問したり、google meet を使用して、オンラインでやりとりを行ったりする。そのことによって、即時のフィードバックが可能となり、児童はより意欲的に活動に取り組むことが期待できる。Fig jam は思考の分類、整理を図るために使う。こどもたち自身がグループの中で自分たちのコンセプトやデザインをはっきりさせるためにとても有効的である。

(4) 外国語科で学んだ表現の活用

外国語科で学んだ表現を使って、自分たちの思いや考えを伝えることにより、教科での学びを他教科で生かすよさや実感を伴えるようにする。また、表現だけではなく、外国語科において必要なプレゼンテーションのスキルを活かして取り組むことにより、往還的な学習環境を作るようにする。単元を通して、英語でやりとりをする機会を多く設定する。

7 指導計画

時	学習過程	○主な学習活動 ★指導上の留意点	◆評価規準 【観点】（評価方法）
1 2 3 4	コンセプト	○日本航空株式会社の方と交流し、航空業界の仕事内容について知る。 ★日本航空株式会社の方から「大田区の魅力を動画で発信する」という依頼を受け、いくつかの視点から紹介する動画のテーマを考えるよう指導する。 ○動画作りのコンセプトを設定するために必要な情報収集や調査を行う。 ★インターネットやこれまでの学習で得た知識などを通して情報を集め、Fig jam にその情報をまとめるようにする。 ★外国語科の学習内容を振り返り、自分たちの町の魅力にはどのようなものがあるのかを考えるとよいことを助言する。 ○収集した情報を整理して、大田区の魅力を伝えるためのグループのコンセプトを設定する。 ★Fig jam を活用して、ブレインストーミング・KJ法的手法を用いてコンセプトを決めるよう指導する。	◆【主】ア（オクリンクプラス） ◆【主】イ（話し合い活動、Fig jam） ◆【知】イ（Fig jam、話し合い活動） ◆【思】ア（Fig jam、google スライド、オクリンクプラス）
5 6 7 8 9 10 11	デザイン	○大田区の魅力を伝える動画の内容を考える。 ★調べた情報を取捨選択し、伝える内容をグループごとにまとめるようにする。 ★自分たちの思いや考えが動画の中に入る構成となるよう指導する。 ○動画作成の仕方を確認する。 ★事前に学習した「Adobe Express」という動画編集ソフトの使い方を確認する。 ○英語で伝えるために、既習の表現を見直し、グループで話す内容や順番を決めて、練習に取り組む。 ★学習した表現をいくつか出し合い、伝えたい内容に合わせて英文を考えさせ、グループの中で話す順番や内容を分担するよう指導する。 ★伝える内容やその順番について、IT 企業（株式会社日本タタ・コンサルタンシー・サービスズ）の方から教わったプレゼンテーションの仕方を生かして考えるように助言する。 ○動画を撮影する。 ★「Adobe Express」を使って、1分程度の動画にまとめているかどうか確認する。 ★作成した動画は事前に送付し、動画を見た感想や良い点、改善点などを話していただく準備を進めてもらうように連絡を取る。	◆【思】イ（話し合い活動、Fig jam、Adobe Express） ◆【主】イ（話し合い活動） ◆【知】ア（Adobe Express、Google スライド、オクリンクプラス） ◆【知】アウ（発表、動画編集） ◆【思】ウ（動画編集、話し合い活動、オクリンクプラス）

12 (本 時)	ク リ エ イ シ ョ ン	○日本航空株式会社の方に動画の内容についての評価を聞き、内容を再考する。(本時)	◆【主】ウ(オンラインでの会話、話し合い活動、オクリンクプラス)
13		○もう一度動画を撮影し、その動画を送る。	◆【思】ア(話し合い活動)
14		★改善点を明確にし、どのようなコンセプト、内容にしたのかをグループ内で確認し、外国語で話す練習時間を確保する。	◆【知】ウ(発表、Adobe Express、オクリンクプラス)
15		○日本航空株式会社の方から動画を評価していただき、自分の取組を振り返る。 ★相手の思いや意図に応じて、自分たちが物事を提案することにはどのような意義があり、どのような価値があったのかを考えることができるようにする。	

8 本時の指導(全15時間中の第12時)

(1) 目標

大田区の魅力がよりよく伝わる動画を作成するため、動画のよい点や課題を日本航空株式会社の方から話を聞き、オンラインでのやりとりを通して、よりよくするためのアイデアをグループで出し合い、解決するようにする。

(2) 展開

	○主な学習活動	◆評価規準【観点】(評価方法) ★指導上の留意点
導 入	○本時のめあてを確認する。	★指導者はファシリテーター役となって、計画や課題を基に児童がめあてを設定できるようにし、自主的な学びを促す。 ★オクリンクプラスを活用して、本時のめあてを記入できるようにする。
	大田区のみ力伝えるPR動画をよりよくするために、内容を見直そう。	
	○本時の学習活動の流れを確認する。	★本時の時間配分、めあてなどを確認し、児童が主体的に1時間を過ごすことができるようにする。

展開	○日本航空株式会社の方から事前に見ていただいた動画の評価を話してもらう。 ・相手が求めていることを考える。 ・他のグループの動画を参考にする。 ○自分たちの動画のよい点や課題について理解する。 ・相手がもっと知りたいと思っている内容について知る。 ・日本（大田区）と外国との違いに気付き、日本の特徴をさらに詳しく知らせる方法や英語の表現について考える。 ・使っている英語の間違いに気付く。 ・話す内容や順番を見直し、動画の構成を考える。 ○日本航空株式会社の方とやりとりを行い、必要な情報を動画に取り入れたり、英語や字幕について質問したりする。 ・自分たちで必要だと感じた内容を入れた簡単な英語を聞いてもらう。 ・分からない言葉を英語で質問し、動画の内容に入れる。	★相手が求めていることは何かを的確に捉え、自分たちの発表がそれに沿っているのかわかを視点に話を聞くよう促す。 ◆企業の方から頂いた助言を基に、作成した動画を見直し、課題を発見して、解決しようとしている。【主】ウ（話し合い活動） ★英語を使って相手に質問できるよう、外国語科の学習で事前に聞き方やコミュニケーションの仕方を指導しておく。 ★企業の方には、児童の質問に答えたり、よいところを伝えたりすることを積極的にしてもらうよう、事前に打ち合わせる。
振り返り	○各グループの進捗を確認し次の時間に取り組むことを確認する。 ・グループの中で個々のすることを話し合い、最後の動画づくりに向けて役割を確認する。 ○めあてを達成するために努力した点や工夫した点、次回に生かしたいことを振り返る。 ・オクリンクプラスに本時の振り返りを行う。	★次回の学習で何をするのかを、グループ全員が共通理解できるようにする。 ★グループの話し合いの進め方や相手意識に基づいた学習の様子を取り上げ、次時の活動に生かすよう声を掛ける。